

「にっこり安心プラン（第6次宇都宮市高齢者保健福祉計画・
第5期宇都宮市介護保険事業計画）」の施策評価について

◎ 趣旨

本市では、平成24年3月に策定した「にっこり安心プラン（第6次宇都宮市高齢者保健福祉計画・第5期宇都宮市介護保険事業計画）」（計画期間：平成24～26年度）に基づき、4つの基本目標を定め計画的に施策事業に取り組んでおり、これまでの取組等を踏まえた施策評価について取りまとめたことから、その内容について協議するもの

1 今回の協議事項の考え方

- ・ 「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」の成立に伴い、介護保険制度については抜本的な見直しが図られ、今後、国より、次期介護保険事業計画の策定にあたり必要となる「介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を確保するための基本的な指針」や、制度改正の具体的な内容と事業実施にあたり必要となる事項を盛り込んだ「ガイドライン」が示される予定となっている。
- ・ 次期介護保険事業計画の策定については、今後、国が示す「基本的な指針」や「ガイドライン」に基づきながら、社会の動向や市民ニーズ等を踏まえた施策の方向性の整理を行う必要があることから、今回は、現行計画における取組状況と課題を整理し、新たな計画の策定に向けた施策評価を行うもの

2 現行計画の施策評価・・・別紙3

現行計画の基本目標毎に定める成果指標の達成状況や主要事業の取組状況について検証し、アンケート調査において把握した高齢者等の状況を参考に施策評価を行うもの

（参考）取組に対する評価の考え方について

本市の行政評価の基準を参考に、平成26年度の目標値に対する進捗状況について、
[90%以上]…順調、[65%以上90%未満]…概ね順調、[65%未満]…やや遅れていると
評価している。

3 今後のスケジュール

平成26年	7月28日	全国介護保険担当課長会議開催（厚生労働省）
	8月～	国の「ガイドライン」等を踏まえた介護保険事業の検討 庁内関係各課との調整
	9月下旬	庁内策定委員会・作業部会開催
	10月上旬	第2回宇都宮市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会開催 ⇒ 施策体系・主要事業等について審議予定

第6次宇都宮市高齢者保健福祉計画
第5期宇都宮市介護保険事業計画
【施策評価】

基本目標 1	みんながつながり、支えあう地域社会の実現			高齢者自身はもとより、その家族が地域コミュニティの中で孤立することなく、地域との連携や周囲の支えのもと、住み慣れた地域での生活を続けることができる、「みんながつながり、支えあう地域社会の実現」を目指します。						
	成果指標	①地域包括支援センターの認知度（65歳以上高齢者）	平成23年度見込値	67.2%	▶	平成25年度実績値	65.8%	▶	平成26年度目標値	80.0%
		②災害時要援護者支援班設置地区数	平成23年度見込値	29地区		平成25年度実績値	34地区		平成26年度目標値	39地区

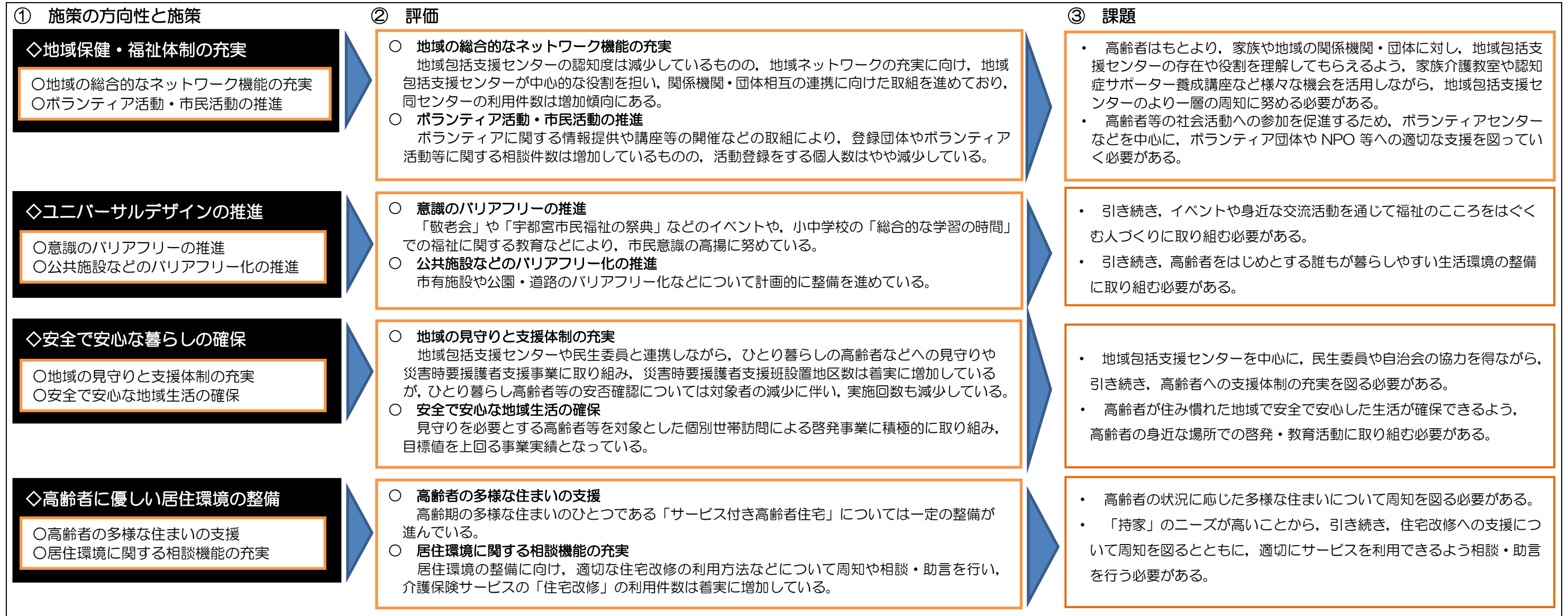
1 主要事業の取組状況と評価

施策の方向性	事業番号	成果指標対象事業	事業・取組名	指標名	単位	H23年度(見込値)	H24年度(実績値)	H25年度(実績値)	H26年度目標値	取組評価
地域保健・福祉体制の充実	[1]	◎	地域会議等を活用した地域ネットワークの充実	地域包括支援センターの認知度(65歳以上高齢者)	%	67.2	66.5	65.8	80.0	概ね順調
ユニバーサルデザインの推進	[9]		敬老会の開催支援など敬老のこころを育む取組の推進	敬老会招待者数	人	48,987	50,935	52,103	54,400	順調
				祝金対象者	人	4,583	4,641	4,661	5,217	概ね順調
安全で安心な暮らしの確保	[14]		ひとり暮らし高齢者等安心ネットワークシステムの推進	見守り活動会議を開催した単自治会の割合	%	64.0%	63.0%	66.0%	74.0%	概ね順調
				安否確認実施回数	回	1,500	1,239	984	2,200	やや遅れている
	[15]	◎	災害時要援護者支援事業の実施	災害時要援護者支援班設置地区数	地区	29	34	34	39	概ね順調
	[19]		高齢者等を対象とした防犯に対する広報・啓発の実施	見守りを必要とする高齢者等への個別世帯訪問による啓発活動回数	世帯	3,409	4,060	3,630	2,230	順調
高齢者に優しい居住環境の整備	[24]		サービス付き高齢者住宅の適切な整備	サービス付き高齢者住宅登録戸数	戸	-	-	764	-	-

2 アンケート調査結果

- **地域包括支援センターの認知度**
 地域包括支援センターについて、若年者（20歳～64歳）の認知度は45.3%と前回より3.2ポイント向上しているが、高齢者（65歳以上）については、65.8%と前回より1.4ポイント減少している。
 また、高齢者のうち65～69歳の認知度が57.8%と低くなっており、このようなことから、高齢者の認知度の減少については、定年延長などにより、高齢者のうち、年齢が低い世代の意識が若年世代に近くなっていることなどが背景にあるものと考えられる。
- **住宅の所有 [高齢者調査]**
 「持家」(90.8%)との回答が最も多く、次いで「民間賃貸住宅」(3.7%)、「公営賃貸住宅」(1.8%)の順になっており、この結果について、総務省社会生活統計(2013年調査)の全国の持ち家率と比較した場合、都道府県平均(66.7%)よりも20%程高くなっており、都心部に比べ、持家のニーズが高い傾向にあるものと考えられる。

3 施策の評価と課題



基本目標2	健康で生きがいのある豊かな生活の実現		高齢者一人ひとりが、自主・自発的に社会参加活動や継続的な健康づくりや介護予防に取り組むことにより健康寿命を延ばし、趣味などの楽しみや、友人との交流などにより生きがいを感じることもできる、「健康で生きがいのある豊かな生活の実現」を目指します。						
	成果指標	介護予防(介護予防教室など)に取り組む高齢者数	平成23年度見込値	2,495人	▶	平成25年度実績値	3,623人	▶	平成26年度目標値

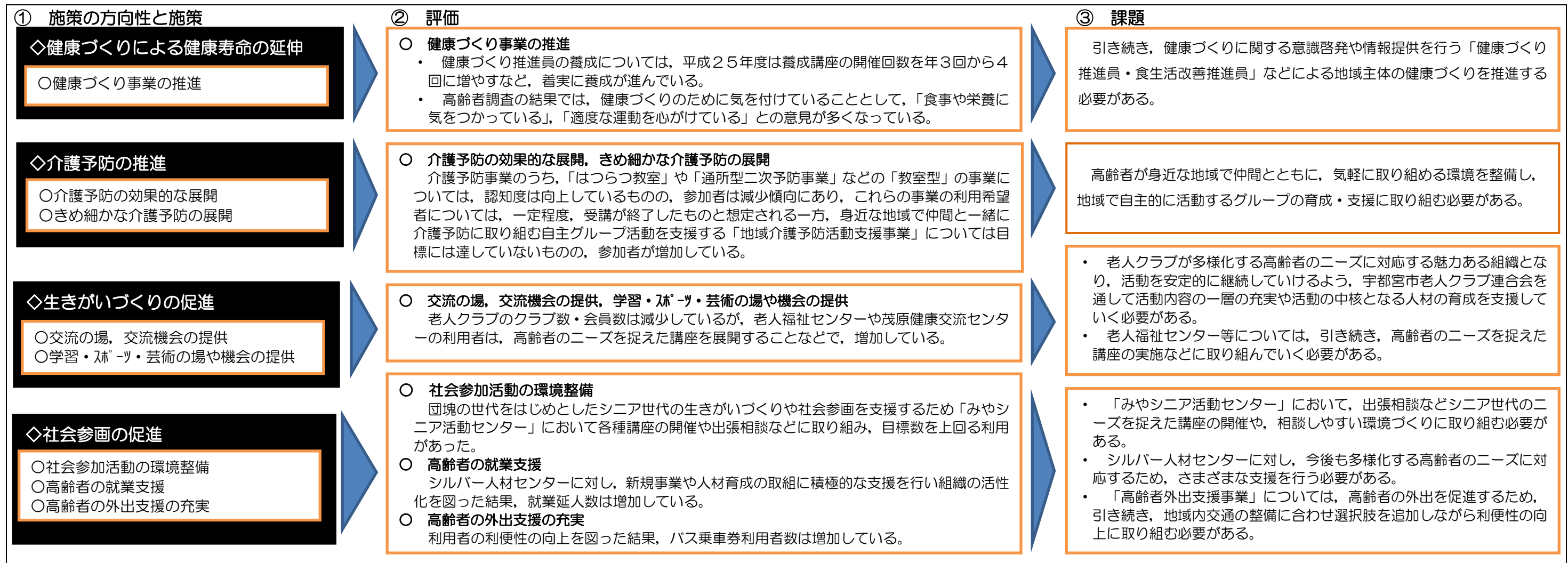
1 主要事業の取組状況と評価

施策の方向性	事業番号	成果指標対象事業	事業・取組名	指標名	単位	H23年度(見込値)	H24年度(実績値)	H25年度(実績値)	H26年度目標値	進捗評価
健康づくりによる健康寿命の延伸	[27]		健康づくり実践活動の推進	健康づくり推進員養成者数	人	1,060	1,118	1,181	1,310	順調
	[35]	◎	はつらつ教室などの開催	参加実人数	人	1,662	1,214	1,233	1,930	やや遅れている
[36]	いきいき健康サッカー教室・いきいき健康自転車教室の開催		参加実人数	人	182	132	185	240	概ね順調	
[37]	通所型二次予防事業の充実		参加実人数	人	571	450	486	810	やや遅れている	
[38]	訪問型二次予防事業の実施		利用実人数	人	80	69	55	100	やや遅れている	
[39]	地域での介護予防活動への支援		参加実人数	人	0	1,244	1,664	2,640	やや遅れている	
生きがいづくりの促進	[42]		老人クラブ活動の育成・支援	単体老人クラブ数	ｸﾗﾌ	357	352	341	372	順調
				老人クラブ会員数	人	20,490	20,137	19,588	21,700	順調
社会参画の促進	[49]		高齢者のライフスタイルに合わせた情報提供・講座等の充実	みやシニア活動センター延利用者数	人	2,320	3,175	3,932	4,200	順調
	[52]		キャリアカウンセラー等による専門相談機能の充実							
	[54]		高齢者外出支援事業の推進	バス乗車券利用者数	人	16,536	18,948	20,671	19,200	順調

2 アンケート調査結果

- **健康づくりについて[高齢者調査]**
 高齢者の健康づくりについて見ると、「食事や栄養に気をつけている」、「適度な運動を心がけている」など、健康づくりに取り組んでいるという回答が9割を超えていることから、健康づくりに関心が高く、自分自身の健康に気をつけている高齢者がほとんどである。
 - **介護予防事業に関する認知度などについて[高齢者調査]**
 - **げんき応援教室（通所型介護予防事業）**
 げんき応援教室（通所型介護予防事業）に対する認知度については30%程度となっており、前回調査時の認知度26.3%より約4ポイント上昇している。
 - **はつらつ教室（介護予防教室）**
 はつらつ教室（介護予防教室）に対する認知度については40%程度となっており、前回調査時の認知度32.9%より約7ポイント上昇している。
- これまでの取組をふまえ、認知度については着実に上昇していることが伺える。

3 施策の評価と課題



基本目標 3	いつまでも自分らしさを持ち、自立した生活の実現		高齢者の状況に応じた適切な福祉サービスの提供や、成年後見制度など高齢者の権利を擁護する制度を必要な時に利用することにより、高齢者一人ひとりが誇りを持ち、自分らしい生き方を続けることができる、「いつまでも自分らしさを持ち、自立した生活の実現」を目指します。							
	成果指標	①認知症サポーター数	平成23年度見込値	13,500人	▶	平成25年度実績値	17,197人	▶	平成26年度目標値	23,000人
		②認知症地域ケアネットワーク会議	平成23年度見込値	0か所		平成25年度実績値	5か所		平成26年度目標値	5か所

1 主要事業の取組状況と評価

施策の方向性	事業番号	成果指標対象事業	事業・取組名	指標名	単位	H23年度(見込値)	H24年度(実績値)	H25年度(実績値)	H26年度目標値	進捗評価
適切な福祉サービスの提供	[56]		高齢者等ホームサポート事業の実施	登録者数	人	660	645	632	690	順調
	[57]		生きがい対応型デイサービス事業の実施	延利用回数	回	23,302	24,029	22,717	25,500	概ね順調
	[62]		緊急通報システム事業の実施	緊急通報システムの延利用台数	台	1,076	1,197	1,163	1,245	順調
	[63]		食の自立支援(配食サービス)事業	登録者数	人	425	292	293	450	概ね順調
	[64]		家族介護教室	開催回数	回	63	56	58	63	順調
認知症高齢者等対策の充実	[68]	◎	認知症サポーター・認知症ケアボランティア養成講座等の開催・支援	認知症サポーター数(累計)	人	13,500	15,171	17,197	23,000	概ね順調
	[73]	◎	認知症地域ケアネットワーク会議(仮称)の設置	設置か所数	か所	-	5	5	5	順調
	[74]		認知症支援医療・介護従事者合同研修会の開催・支援	参加者数	人	150	107	150	200	概ね順調
	[77]		認知症の人を介護する家族のつどい・交流会の開催	家族介護教室開催回数(再掲)	回	63	56	58	63	順調
高齢者の権利擁護及び制度の利用支援	[78]		認知症の人やその家族を支えるネットワークの充実	認知症の本人やその家族を支えるためのネットワーク会議(仮称)開催回数	回	-	10	10	4	順調
	[80]		権利擁護事業の推進	地域における虐待防止のための普及啓発活動	回	-	39	39	39	順調

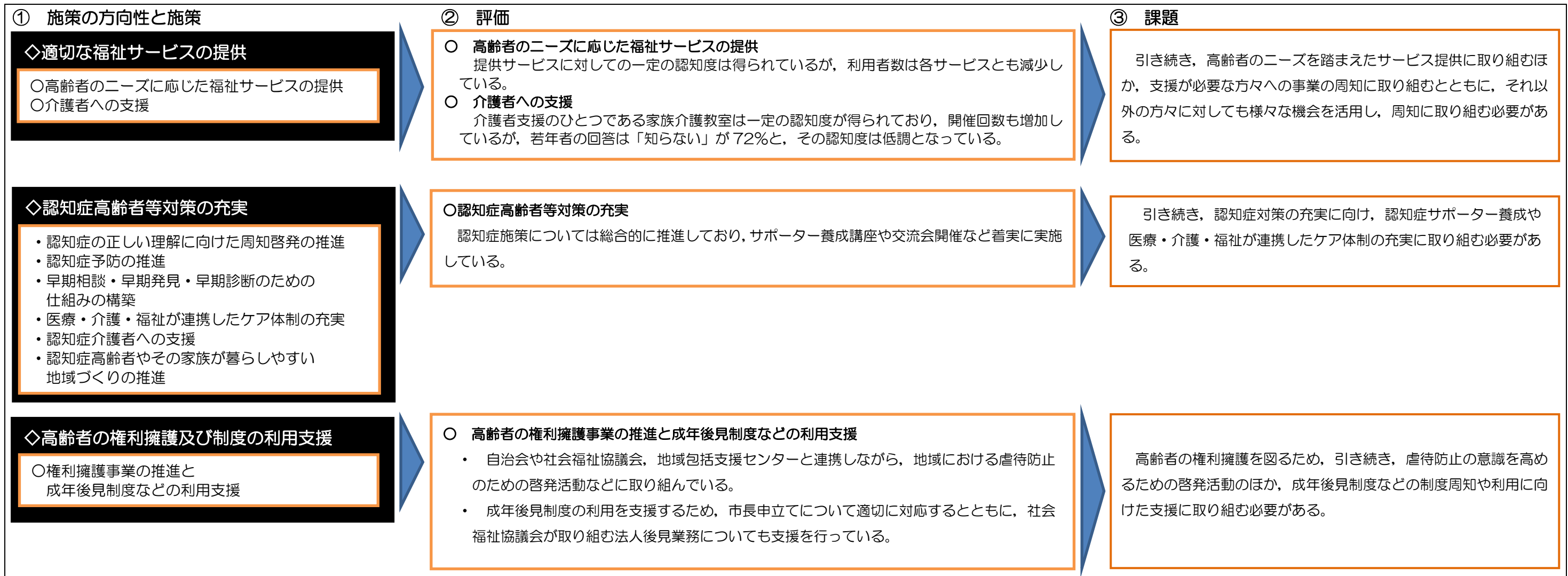
2 アンケート調査結果

● 宇都宮市で実施している福祉サービスの認知度について

- 高齢者等ホームサポート事業 [高齢者調査] 24.9%
- 生きがい対応型デイサービス [高齢者調査] 42.3%
- 緊急通報システム [高齢者調査] 30.8%

サービスの利用条件が、一人暮らしや非課税世帯であるなど、対象者が限定される中においては、一定の認知度が得られており、高齢者の各種サービスに対する関心の高さが現れた結果と考えられる。

3 施策の評価と課題



基本目標 4	介護サービスの利用を通じた笑顔あふれる社会の実現		介護サービスの充実を図るとともに、介護サービスの質の向上に向けた取組を進め、高齢者本人やその家族が安心して利用できる介護保険事業を運営することにより「介護サービスの利用を通じた笑顔あふれる社会の実現」を目指します。						
成果指標	ケアプランに対する満足度	平成23年度見込値	87.8%	▶	平成25年度実績値	89.7%	▶	平成26年度目標値	94.5%

1 主要事業の取組状況と評価

施策の方向性	事業番号	成果指標対象事業	事業・取組名	指標名	単位	H23年度(見込値)	H24年度(実績値)	H25年度(実績値)	H26年度目標値	進捗評価
介護サービスの質の向上	[84]	◎	ケアプランに対する助言・指導	ケアプラン点検数	件	180	303	452	180	順調
	[85]	◎	介護サービス従事者に対する研修会等の実施	開催回数	回	9	9	9	9	順調
	[86]		介護給付費通知の送付	送付通数	通数	10,000	11,388	12,255	12,000	順調
	[89]		パンフレットやホームページ等を活用した介護保険制度の周知・啓発	介護保険の手引き作成部数	部	11,000	11,500	10,000	13,000	概ね順調

2 アンケート調査結果

- **介護サービス計画（ケアプラン）に対する満足度**
 ケアプランに対する満足度については、「満足している」（60.7%）、「ほぼ満足している」（29.0%）の合計が89.7%と前回の調査結果から1.9ポイント上昇している。これは、研修等により、ケアマネジャーの資質の向上が図られ、ケアプランの質も向上しているものと考えられる。
- **介護保険制度の認知度**
 介護保険制度の認知度について、若年者では、保険料に関する事項やサービスを利用する際の負担についての認知度は高いが、どのような状態になったらサービスが利用できるかについては認知度が低くなっている。これは、若年者が介護保険について、自分自身が利用する制度であるとの実感が無いことが要因と想定される。
- **家族介護教室の認知度と利用意向について**
 家族介護教室については、介護者となる若年者が「知らない」が72%と認知度が低くなっているが、これは、教室の周知について、現在、認定を受けている方の家族など、利用が必要な方を中心として行っていることが要因と考えられる。また、今後の利用希望は約42%となっている。

3 施策の評価と課題

